

LinkRunner の活用例

1. パッチ・ケーブルまたは敷設済みのケーブルをテストするには

パッチ・ケーブルの場合



LinkRunner の “LAN” と
“MAP” ポートにパッチ・
ケーブルをループの形で
取りつける

敷設済みケーブルの場合

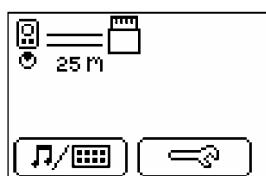


LinkRunner の
“LAN” ポートにケーブル
の片端を取り付ける

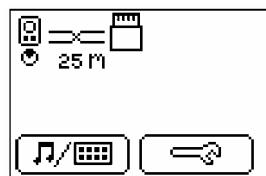
もう片端には付属の
WIREMAP アダプター
を取り付ける

ケーブルのテスト結果例

問題なし

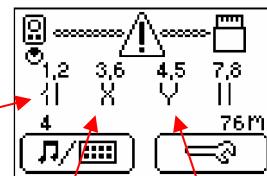


ストレート



クロス

問題あり



オープン

リバース

ショート

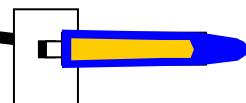
2. 加工前のケーブルまたは110ブロックからテストするには



LinkRunner の “LAN”
ポートにオプションの
クリップ・セット(別売)
を取り付ける

わに口クリップに
各ペア線を挟む
ことでテスト可能
となる

ワイヤーマップ・アダプター

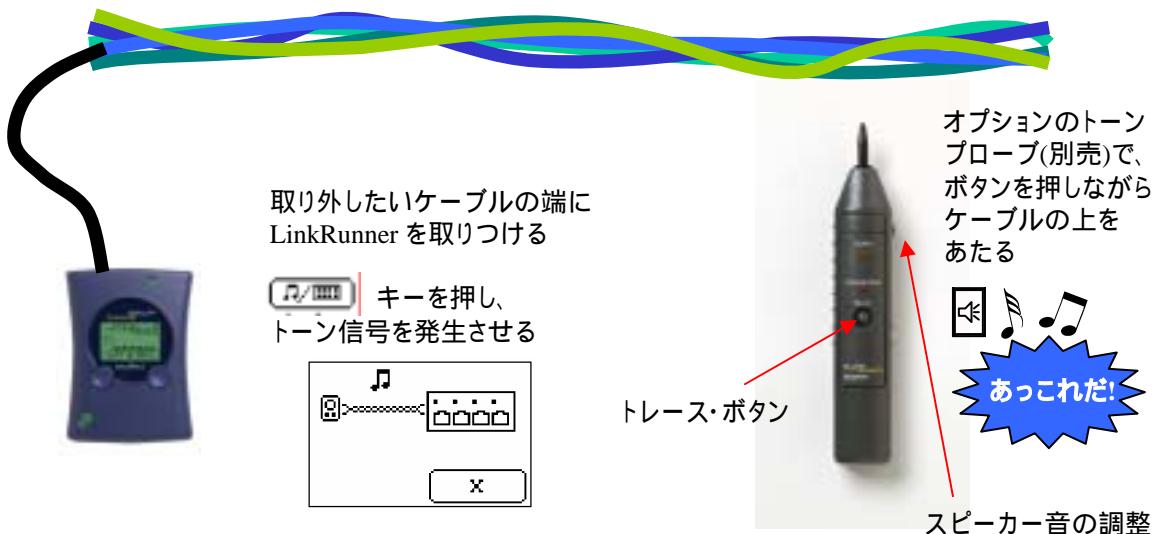


長さのみを測定する
場合は、遠端側の
Wiremap アダプター
は必要ありません



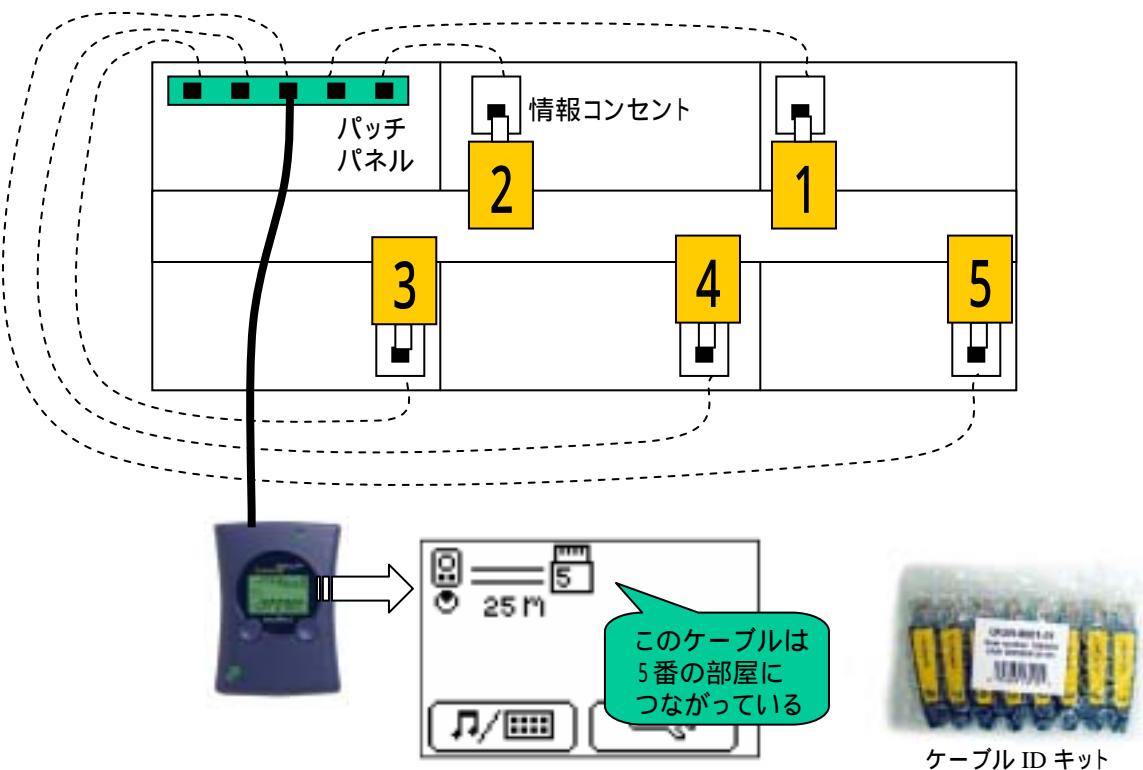
クリップ・セット

3. ケーブルを取り外したいのだけれど、束ねてあるのでどれだか探すのに手間がかかる



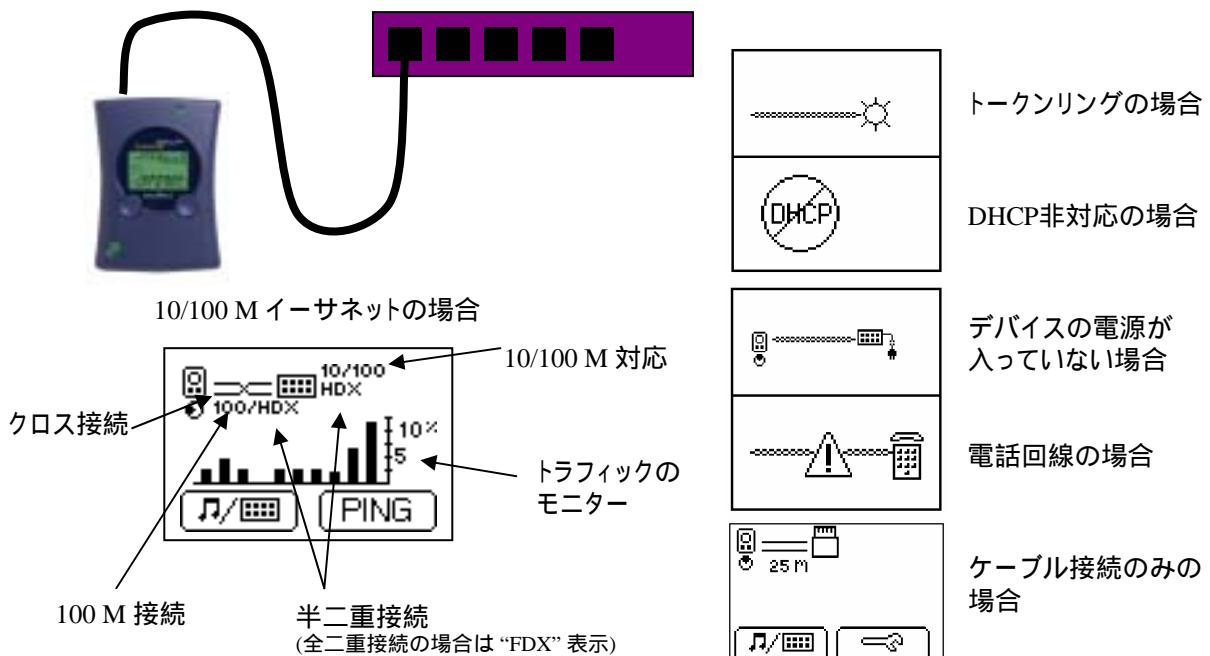
4. どの部屋にケーブルがつながっているのか分らない

各部屋にオプションの ID ユニット(別売)を取りつける
集線室にて LinkRunner をパッチパネルのポートに取りつける
LinkRunner の画面に ID ユニットのアイコンとその番号が表示される

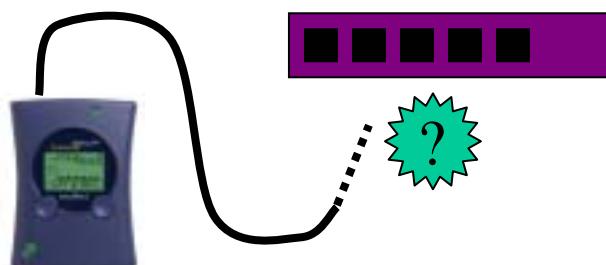


5. ネットワークの信号がきているかどうかを確認するには

LinkRunner の LAN ポートを情報コンセントまたはハブ・ポートに接続する

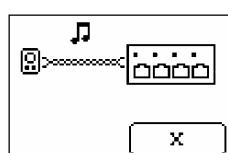


5. どのハブ・ポートに接続されているか確認するには



LinkRunner の LAN ポートを確認したいケーブルに接続する

[] キーを押し、
トーン信号を発生させる



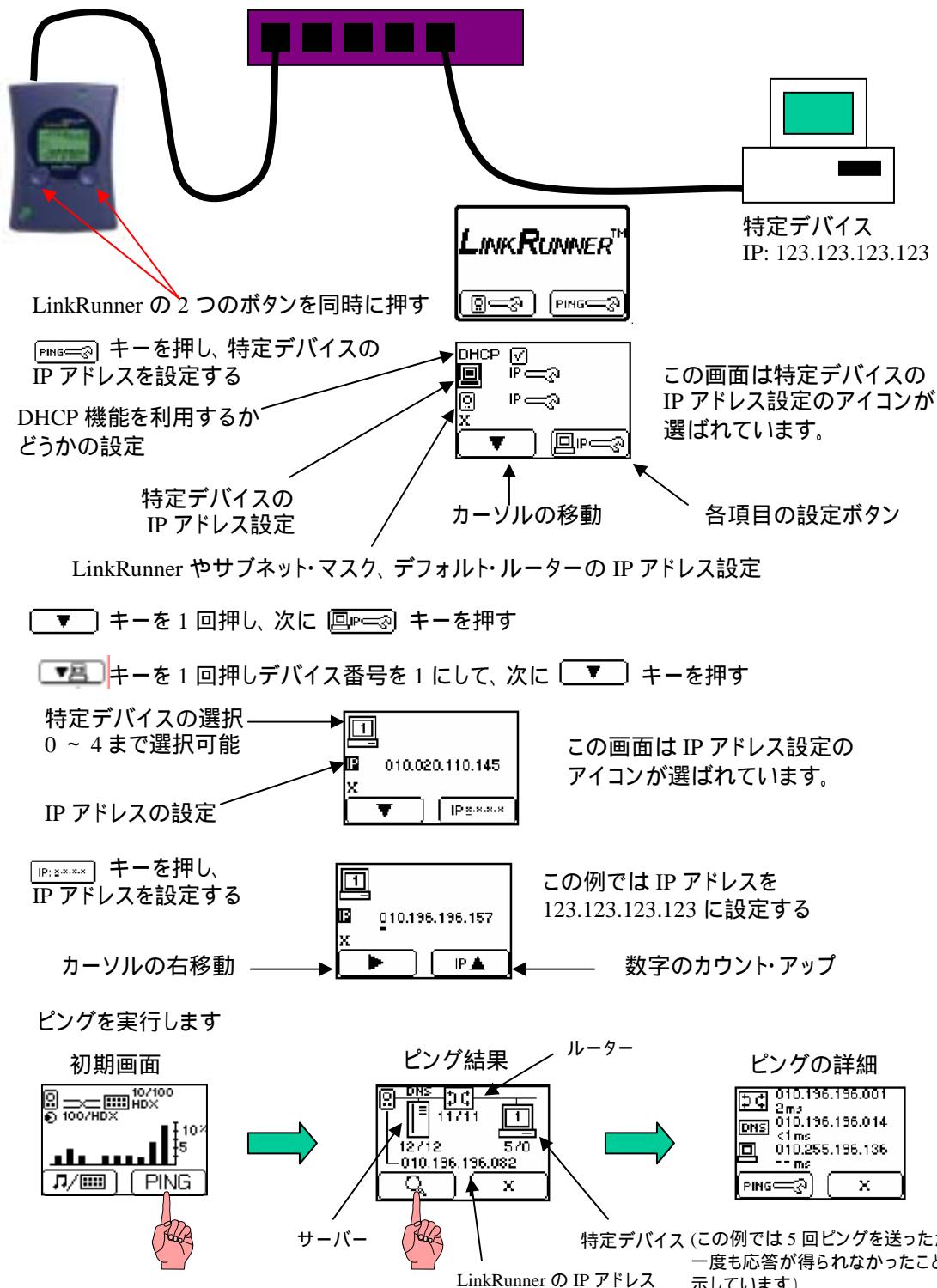
ハブのリンク・パルスの点滅
によりポート番号が確認できる



6. 特定デバイスとの通信が可能かどうか確認するには

ピング機能を実施することで LinkRunner と特定デバイス間の疎通とその時間を確認できます。

LinkRunner の LAN ポートを情報コンセントまたはハブ・ポートに接続する



7 . RJ45 カプラー

ケーブルの RJ45 プラグとワイヤ - マップやケーブル ID の RJ45 プラグとを接続する場合に使用する RJ45 ジャック-ジャック・カプラー



8 . 充電式バッテリーおよびバッテリー・チャージャー

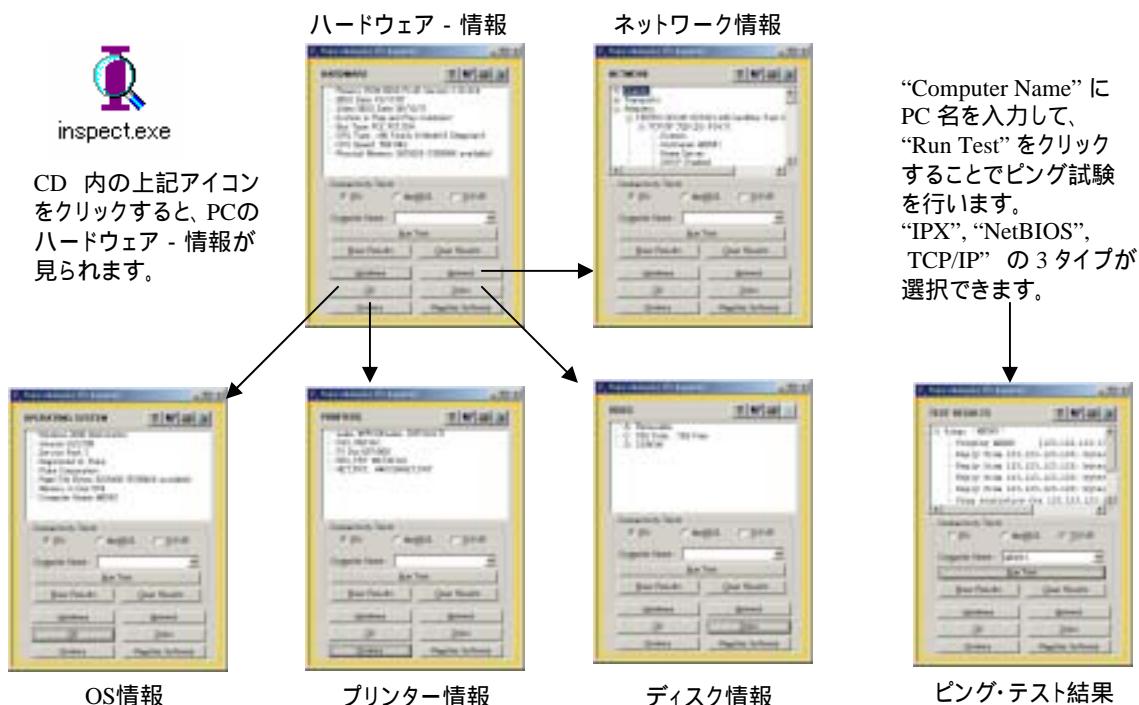
オプションで充電式バッテリーとチャージャーが用意されています。



バッテリー・チャージャー
および NiMH バッテリー

9 . PC インスペクター・ソフトウェア -

オプションで PC インスペクター・ソフトウェア - が用意されています。PC のハード/ソフト状況が簡単に分ります。コンパクトなサイズなので FD に入れて持ち運ぶこともできます。



10 . ソフト・キャリング・ケース

オプションで LinkRunner 本体とその他オプションが収納できるキャリングケースが用意されています。LinkRunner 本体と上記で紹介した 1 ~ 10までのオプションがセットになったお得な LinkRunner 拡張型テスト・キットも用意されています。

オプション
収納例



11 . ベルト・クリップ・ホルダー

LinkRunner を WEB 上から製品登録することで、本体を保護するベルト・クリップ・ホルダーを進呈しています。下記アドレスより登録することができます。 <https://myvision.flukenetworks.com/register>

ホルダーを取付けた
LinkRunner

